

にじだより

社会福祉法人
別府リハビリテーションセンター
障害者支援施設にじ

<にじ> ～紫陽花によせて～

梅雨の季節となり、別府リハビリテーションセンターに続く坂道には、色とりどりの紫陽花(あじさい)がキラキラと美しく咲いています。

紫陽花は雨あがりの虹<にじ>が良く似合い、梅雨のうっとうしさを軽やかにしてくれるようです。

障害者支援施設<にじ>では、利用者の皆様が、日々各種プログラムに取り組まれています。30種目もの多彩な内容から、その方に適したものを選び、目標達成に向けて取り組まれているのです。

紫陽花は、土の種類によって七色に変化するそうです。<にじ>を土とすると、利用者の方々はさながら紫陽花のように、さまざまな色の花を咲かせて下さいます。

家庭復帰して家族の役割を担う方・職場復帰される方・新たに就職や福祉就労をされる方・住まいを見つけ一人暮らしをされる方・自動車運転を再開される方・・・。

時には、当初と違った進路になることもあります。新たな色になった時の感動はひとしおです。

また、紫陽花の花言葉は、小さな花が寄り集まっていることから、「団結」「和気あいあい」などがあるそうです。<にじ>では、生活支援員・看護師・介護福祉士・就労支援員・職業指導員・理学療法士・作業療法士など各専門職が寄り集まり、利用者の皆様の地域生活へ向けた関わりを「団結」して行っています。

急性期・回復期リハビリテーションを終えられた方、職場復帰・就職などの準備をされたい方など、私たちと一緒に、<にじ>でいろいろな色の花を咲かせましょう。

そのためにも良い土になれるよう、わたしたち職員は日々明るく頑張ります。

～<にじ>の向こうは、きっと晴れです～

障害者支援施設<にじ>
施設長 古本 節子



温水プールで水中運動



当施設では、就労や自立した生活を最終的な目標にバリエーション豊かな訓練提供を行っていますが、その多くの方の第一歩は移動の自立・強化です。今回は、機能訓練の中でも“にじ”ならではの『水中運動』をご紹介します。

一般的には「水中運動」というと、関節疾患や肥満傾向の方が対象と思われるかもしれませんが、その他にも脳や脊髄などの中枢神経疾患の方にもご参加頂いています。

(排泄が自立している、てんかん既往が無い、歩行レベルでの移動が可能など条件はあります)

筋力・体力の向上は勿論ですが、陸上とは異なり筋緊張を抑制した中での適切な歩行パターンの習得が可能で、さらなる歩行能力向上の一助となっています。ゆったり大きな温水プールは気分転換にも最適です。



理学療法士が楽しく、真剣にアドバイス



温水プールなので1年中利用できます。ダイエット効果あり!

保健室ってなあに？



「私たち二人がお待ちしています！」



保健室からはいつも利用者さんとの
笑い声が聞こえてきます

「別府リハビリテーションセンターにじ」には『保健室』と呼ばれる部屋があります。

保健室には看護師が常駐していますが、例えるなら学校の保健室です。
学校では「お腹が痛いから保健室に行ってくる」という形で保健室を利用すると思います。
それと同じような場所が「にじ」の保健室です。

病院に入院している時は医師・看護師が病室を訪ねて
「体調の悪いところは無いですか？」となりますが、
「にじ」では利用者様が保健室を訪ねて来て症状を自ら伝えるという形をとっています。

それは自宅に帰った際、体調が悪いと感じた時に自分から訴えたり、
病院に受診する事が出来るようになるための練習なのです。

保健室の看護師は、利用者ご自身が自分の健康状態を知り社会復帰後も自力で
健康管理ができることや、心身の健康は毎日の生活の中で各自が自主的に管理する、
という考えのもと、日々生活指導や予防活動を行っています。

これまでの私 これからの私 ~にじを卒業された方のご紹介~

大分県内に住む30代のTさん。
医療品の営業の仕事をしていましたが、4年ほど前にクモ膜下出血を
発症しました。その後職場復帰を果たしますが、仕事がうまくいかず退職。
自宅で求職活動をしていた矢先に今度は脳出血を発症します。

人生を諦めた時期もあった

失語症と高次脳機能障害が残り人生を諦めた時期もあったそうです。
しかし、今回こそはと、当施設を利用されることとなりました。
入所当初は口頭だけの説明や一度に与えられる多くの情報に
混乱したりする場面がありました。
そんな自分に落ち込みながらも“次はどうしたら出来るか？”
と真摯に症状と向き合っていたTさん。

障害を理解してもらっていた方が安心

就職に向けて準備を進める中で、障害を隠して就職活動をしたいと思われた時期も
ありましたが、話し合いを重ね“障害を理解してもらった上で就職した方が安心”
と考えるようになりました。

たゆまぬ努力の成果で徐々に症状が改善し、障害者職業センターの方の協力も得て
福祉用具の営業職の就職面接に行くこととなります。その時社長さんから
「病気をされた方の気持ちが実体験として理解できる事は強力な長所」と言って頂いたそうです。そして見事合格！
入所から1年2ヶ月後のことでした。現在は会社の上司や先輩方のサポートを受けながら生き活きと仕事をされています。
今ではTさんと私達「にじ」は福祉用具を通じて仕事上での欠かせないパートナーとなりました。
Tさん、これからもよろしくお願ひしますね！



「会社の上司や仲間に本当に
恵まれている」と語るTさん



いつも頑張り屋なTさん

ご利用いただける方

- ・身体障害、高次脳機能障害、難病の方
- ・18歳から64歳までの方
- ・トイレがおおむね一人で出来る方
- ・常時、医療行為が必要のない方



障害者支援施設にじ

(機能訓練・生活訓練・就労移行支援)

住所：大分県別府市鶴見1026-10

電話：0977-67-1716

http://www.brc.or.jp

